

## 第百八十五話 数多の和平交渉不成就の原因は？

日本は、支那事変の早期解決、対米戦回避を希求しつつも、対支、対米和平の切っ掛けを掴めず、ずるずると戦線を拡大し、戦端を開いてしまったような気がする。数多行われた対支、対米和平交渉から我々は何を学ぶべきだろうか？日本人は交渉下手と片付けるだけでよいのか？

### 1 対支、対米和平交渉の数々

当メモランダムで何回か取り上げているので、詳細は割愛させて頂く。

#### (1) 対支和平交渉（第二十五話参照、五十九話、九十三話）

- ・船津和平交渉 ・トラウトマン工作 ・汪精衛を通ずる和平構想
- ・孔祥熙ルート ・スチュアート・王克敏ルート ・米国を通じての和平提案
- ・南京政府との交渉 ・桐工作 等々

#### (2) 日米交渉（第五十話、五十九話、等）

- ・日米諒解案（N工作） ・日米首脳会談 ・東条内閣の対米交渉「甲」「乙」案
- ・暫定協定案

（N工作：野村駐米大使、井川忠雄、岩畔豪雄対ハル国務長官等）

### 2 戦いつつの和平交渉(対支)と戦い回避のための和平交渉(対米)という特色がある。

### 3 これらの和平交渉経緯をどう見るべきか？

#### (1) 相手側が応じる気があるのかどうか？が根本問題

蒋介石は勿論ルーズベルトも日本との和平を本当に望んでいたのだろうか？暗号を解読されて手の内を詠まれては、和平交渉が失敗するは必定だろう。

#### (2) 戦い継続中の和平交渉では、否応なしに和平条件を飲まなければならない状況下での交渉か、ある程度相手も飲める条件を提示しての交渉でなくては纏まらない。

和平条件の吊り上げや“相手にせず”等の不用意な発言で全てを無にする。

#### (3) 日本側の和平に関する堅確な意思決定はどうだったのか？何処まで、真剣に和平を望んでいたのか？諸々の和平交渉があるも、それは明確な国家意思となっていたか？

#### (4) 一貫性ある交渉が出来たのであろうか？

二元外交的な和平交渉は勿論不可である。現地レベルの外交交渉者、外相レベルそして総理(政府)の一貫性が欠如していた面もあったようだ・・・交渉人の選定は？

#### (5) 和平交渉では、思い切った決断が必要

日米交渉では支那からの撤兵が最大の争点だったが、矢張り、撤兵は無理だったのだろうか？陸軍としては諸般の事情から飲めないとしても、政治決断は出来なかったか？対支交渉でも、満州のみの駐兵条件案も無理だったのか？

日露戦争の講和条約では、反発した国民が日比谷焼き討ち事件を起こしたが、それ位の思い切った和平決断が出来なかったのは残念だ。

#### (6) 対支和平で感じるのは、国民党、共産党、日本の三つ巴の中で如何なる和平こそが望ましいかの展望はなかったのかということだ。国共合作をさせずに、国民党を支援した方が良かったのではないか？最も、戦後の後知恵ではあるが・・・

#### (7) 様々な和平交渉のある段階ではそれが纏まるかもしれないというようなタイミングがあるように思える。その機を鋭敏に掴めるかどうかとも重要だと思えるのだが。

その機は一瞬来りて、一瞬にして去ると思う。

#### (8) 足元見られずにギリギリの交渉を行える、双方から信頼される人材を渴望

#### (9) 下交渉から政府間交渉への格上げ等のタイミングは？

#### (10) 対支、対米の二正面回避の大戦略の決断なきが最大の禍根

\* 大局判断の出来るリーダーの存在が不可欠なのだろう。日本は交渉下手？

(第百八十五話 了)